

平成 28 年 3 月 27 日入手

区民の KW 氏より、下記の「身延線鉄道唱歌」の歌詞をいただいた。この歌詞は、KW 氏の知り合いの「小澤 肇」が作られたものだという。小澤氏は富士市在住、平成 28 年 3 月現在で 91 歳。本ホームページ編集者は、電話によりご本人と話をし、ホームページ掲載の許可を得た。

また、より多くの人の口に上るように、多少の言葉の変更も許可していただいた。例えば歌の中で、富士宮駅を「ふじみやえき」と呼ぶべきか「ふじのみやえき」と歌うべきか、はたまた「ふじのみや」ととどめたほうがよいか。他にも七五調におさまらないところ、この駅名にはこの事績の方がより住民に愛着が湧く、など、多くの人の気持ちや意見も聞きながら、微調整し、皆さんに親しまれるものにしてゆきたい。

ただ、原作者の小澤 肇氏は、作詞に当たり、各駅付近の現地の図書館等にもおもむいて相当の研究を重ねた。小澤氏の郷土愛や詩情、最初にこれを書きあげた独創性はすばらしいもので、そのお名前は必ず残したいと考える。ここで初公開だが、諸賢のご意見を是非いただければ、と思う。

富士宮市大岩 3 区まちづくりプロジェクト代表 松田 壽久

鉄道唱歌（明治 33 年 5 月）地理教育鉄道唱歌 東海道編（歌詞は 66 番までであるが一番のみ掲載）

♪ 汽笛一声 新橋を はやわが汽車は 離れたり
愛宕の山に入り残る 月を旅路の 友として

【身延線鉄道唱歌】 作詞 小澤 肇 作曲 上 眞行

- 1 汽笛一声 富士駅を わが乗る列車 離れたり (きてきいっせいふじえきをわがのるれっしゃははなれたり)
三十九駅 九十軒 普通列車の旅とせん (さんじゅうきゅうえき くじゅうきろ ふつうれっしゃのたびとせん)
- 2 柚木 豎堀 入山瀬 富士梨 出場所 この辺り (ゆのきたてぼりいりやませ ふじなしでばしょこのあたり)
三大仇討ち 一つなる 曾我兄弟の 寺社があり (さんだいだうちひとつなる そがきょうだいのじしゃがあり)
- 3 右に霊峰仰ぎつつ 富士根にたなびく 雲の帯 (みぎにれいほうあおぎつつ ふじねにたなびくくものおび)
富士宮駅は 登山口 浅間大社に焼きそばに (ふじみやえきはとざんぐち せんげんたいしゃにやきそばに)
- 4 西富士過ぎれば左に見ゆる 沼久保駅を「ぼくまぬけ」(にしふじすぎればさに見ゆる ぬまくぼえきを「ぼくまぬけ」)
逆さに読んで 失礼す こちらで富士山 さようなら (さかさによんでしつれいす こちらでふじさん さようなら)
- 5 三大急流富士川に 沿って行きます芝川 (さんだいきゅうりゅうふじかわに そってゆきますしーばかわ)
筍産地 この界限 旬の王者でこの字なり (たけのこさんちこのかいはい しゅんのおうじゃでこのじなり)
- 6 戦国武将信長公 首塚西山本門寺 (せんごくぶしょうのぶながこう くびづかにしやまほんもんじ)
平家の落武者維盛の 墳墓が稲子の奥に在り (へいけのおちむしゃこれもりの ふんぼがいなこのおくにあり)
- 7 稲子で駿河を後にして 甲州十島よいところ (いなこでするがをあとにして こうしゅうとうしまよいところ)
義民で命かけた人 佐倉惣五郎出たところ (ぎみんでいのちかけたひと さくらそうごろうでたところ)
- 8 井出ては寄りはた内船へ 南部の火祭り空焦がす (いでてはよりはたうつづなへ なんぶのひまつりそらがす)
奥州南部の祖の地なり 遺風は今に伝えらる (おうしゅうなんぶのそのちなり いふうはいまにつたえらる)
- 9 身延の駅に降り立ちて 日蓮宗の絵本山 (みのぶのえきにおちたちて にちれんしゅうのそうほんざん)
五重の塔の再建に 枝垂れ桜が花添える (ごじゅうのとうのさいけんに しだれざくらがはなそえる)
- 10 信玄公の隠し湯の 下部で疲れ癒されん (しんげんこうのかくしゆの しもべでつかれいやすれん)
湯の奥甲州金山は 武田氏支えた軍資金 (ゆのおくこうしゅうきんざんは たけだしきさえたぐんしきん)
- 11 全国各地に木像を 遺せし木喰上人の (ぜんこくかくちにもくぞうを のこせしもくじきしょうにんの)
生れは古関微笑館 山の上でも人絶えず (うまれはふるせきびしょうかん やまのうえでもひとたえず)

- | | | |
|----|--|---|
| 12 | 市の瀬久那土甲斐岩間 印章で名高き町なれや
向いの西島和紙作り 書家の望みの叶う町 | (いちのせくなどかいいわま いんしょうでなだかきまちなれや
(むかいのにしじまわしつくり しょかののぞみのかなうまち) |
| 13 | 視界が開けて鯉沢 舟運の名残り今はなく
敷かれし鉄路に抛る処 甲駿交流夜明けなり | (しかいがひらけてかじかざわ しゅううんのなごりいまはなく)
(しかれしてつろによるどころ こうすんこうりゅうよあけなり) |
| 14 | 市川大門本町 知恵の文殊の名も高く
歌舞伎の市川出た所 夢々共々忘れなん | (いちかわだいまんほんまち ちえのもんじゅのなもたかく)
(かぶきのいちかわでたどころ ゆめゆめともどもわすれなん) |
| 15 | 笛吹川を打ち渡し 見よや果樹やら野菜やら
果樹王国と謳わるる 甲府盆地の花輪なる | (ふえふきがわをうちわたり みよやかじゅやらやさいやら)
(かじゅおうこくとうたわるる こうふんちのはなわなる) |
| 16 | 四方の山に目をやれば 雲突く山脈いや高く
山紫水明善光寺 石和の湯けむり指呼の間 | (よものやまにめをやれば くもつくやまなみやたかく)
(さんしすいめいぜんこうじ いさわのゆけむりしこのかん) |
| 17 | 終点甲府は中央線 乗り継ぐ人も数多く
舞鶴城跡今も尚 武田の遺跡守れかし | (しゅうてんこうふはちゅうおうせん のりつぐひともかざおおく)
(まいづるじょうせきいまもなお たかだのいせきまもれかし) |
| 18 | 時は人を替えれども 山梨県庁基になり
明るく平和な州作り 身延線と共に栄えあれ
身延線と共に栄えあれ | (ときはひとをかえれども やまなしけんちょうもとになり)
(あかるくへいわななくにつくり みのぶせんとともにさかえあれ)
(みのぶせんとともにさかえあれ) |

【身延線の沿革】

- | | | |
|---|-------|---|
| 1 | 創設の認可 | 明治 44 年 (西暦 1911 年) 4 月 26 日 |
| 2 | 社名 | 富士身延鉄道株式会社 |
| 3 | 資本金 | 4 百万円 |
| 4 | 工事着工 | 大正 2 年 1 月 8 日 |
| 5 | 部分開通 | 大正 9 年 5 月 18 日 富士駅から身延駅まで汽車運行 |
| 6 | 全面開通 | 昭和 3 年 3 月 28 日 (1928 年)
富士駅～甲府駅 電車運行 88.4 k m |
| 7 | 国鉄移行 | 昭和 16 年 5 月(1941 年) 日本国有鉄道 線名を身延線とす |
| 8 | 民営化 | JR 東海 昭和 62 年 4 月(1987 年)
社名 JR 東海道旅客鉄道株式会社 |
| 9 | 付記 | 身延線全線開通 80 周年行事と併せて富士宮駅高架化着工祝賀行事富士宮駅で開催
平成 20 年 4 月 6 日 (2008 年) |